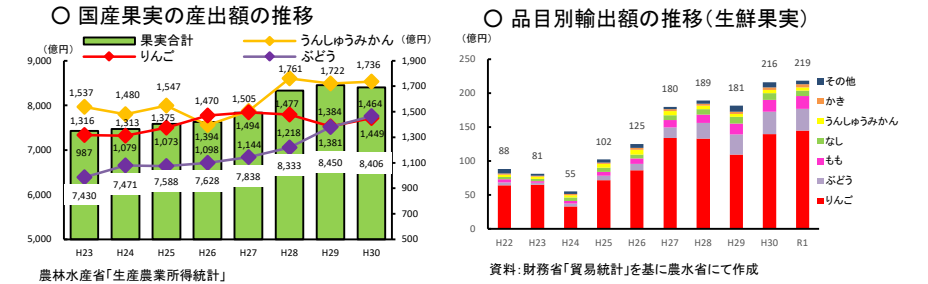


新たな果樹農業振興基本方針について

<現 状>

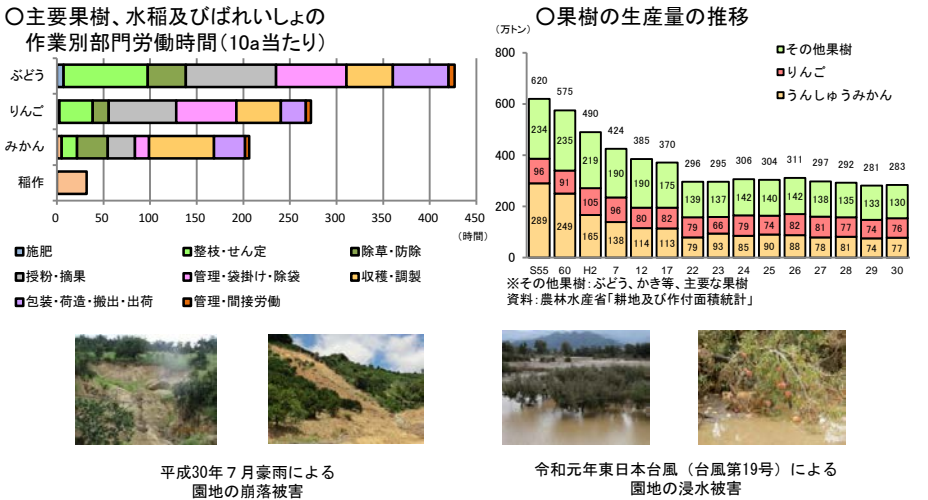
果樹農業の魅力と重要性

- **優良品目・品種への改植等**が進んでいること等を背景に、**高品質な国産果実の生産**が行われており、**国内外において高い評価**を受けている。
- 輸出品目としても**高いポテンシャル**を持っており、令和元年には生鮮果実の輸出額が**過去最高の219億円**を記録。



果樹農業の現状と課題

- 他の作物と比較して労働時間が長く、かつ、労働ピークが収穫等の短期間に集中する**労働集約的な構造**のため、**園地の集積・集約化、規模拡大が進んでいない**。
- 果樹の販売農家は**10年で2割減少**。**60歳以上**がその約**8割**を占め、**高齢化が深刻**。
生産現場の人手不足等により**生産基盤がぜい弱化し**、人口減少による需要の減少を上回って**生産量が減少**。
- 近年頻発している**大規模自然災害や気候変動**による栽培環境の変化、**鳥獣・病害虫**等の様々なリスクが存在。



流通・加工面における課題

- 集出荷、輸送等の**食品流通**においても**人手不足が深刻化**。
- カットフルーツや醸造利用等の**新たな加工ニーズ**があるものの、生産量の減少等により、**国産加工原料用果実の確保が年々困難**となっている。

<施 策 の 方 向>

果樹農業の振興に向けた基本的考え方

供給過剰基調に対応した生産抑制的な施策から、**低下した供給力を回復し、生産基盤を強化**するための施策に転換する。

生産現場における対策の推進

- 果樹の生産基盤を強化するため、
①省力樹形等の導入による**労働生産性の抜本的な向上**
②園地・樹体を含めた**次世代への円滑な経営継承**
③苗木・花粉等の**生産資材の安定供給体制の整備**等を推進。
- 様々なリスクへの対応力を強化するため、
・ 防災・減災の観点からの**基盤整備の推進**、
・ 気候変動等に対応した**技術・品種の開発・普及**
・ **収入保険や果樹共済**といったセーフティネットへの加入等を一層推進。

<生産数量目標> (単位:千トン)

	うんしゅうみかん	りんご	ぶどう	なし	もも	果実計
平成30年度	774	756	175	259	113	2,833
令和12年度目標	784	819	210	288	124	3,083

市場拡大に向けた対策の推進

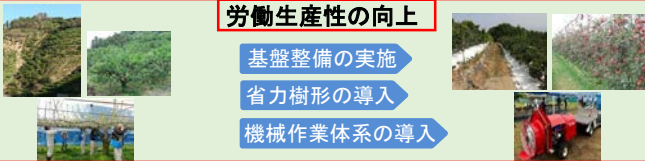
- 食の外部化・簡便化等に伴う消費者ニーズの多様化・高度化に対応し、**「より美味しく、より食べやすく、より付加価値の高い」果実及び果実加工品の供給拡大**を推進。
- **輸出拡大に向けた生産力の増強**と輸出先国・地域の規制や条件に対応するための**環境整備等**を推進。

流通・加工面における対策の推進

- 出荷規格の見直しやパレット流通体制の構築等の**省力的・効率的な果実流通**への転換を推進。
- **新たなニーズに対応した国産の加工原料用果実**の生産・供給拡大を推進。

<生産基盤の強化>

労働生産性の向上



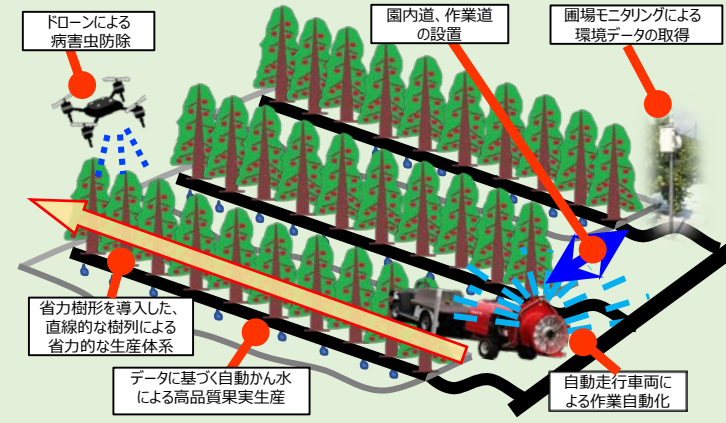
円滑な経営継承



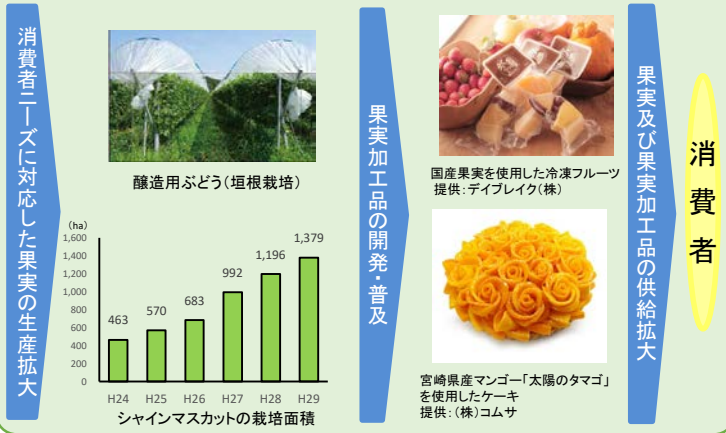
生産資材の安定供給体制



労働生産性を高めた生産体系



<市場拡大に向けた生産供給体制の構築>



果樹農業の持続的発展と成長産業化